


# アート界のイノベーション④

2020年12月13日

15:52

通番	区分	テーマ	ねらい・概要	スライド	使用教材
1	I・II		我々は「絵」を見る時に、「絵」そのものではなく、「絵」から伝わるイメージを受け取っている。ここを取り上げ、変革を起こした作品を鑑賞して考察する		

時間	スライド	ファシリテーション・生徒の活動・留意点など
10分	<p>「芸術界」にイノベーションを起こした作品</p> <p style="text-align: center;"><b>4</b></p> <p>問い 5分間のラクガキ紙に鉛筆でラクガキしてください。その際、ちょっと意識してもらいたいのはなるべく「他の人と共通点がないような絵」にすること。それ以外は何を描いても大丈夫。ただのラクガキなので気楽にサツサッと描いてみてください。</p> <p>問い グループ内すべてのラクガキの共通点をさがしてみてください。</p> <p>問い 次の絵は、歴代5番目の超高額で取引されたアート作品「ナンバー1A」です。作者はジャクソン・ポロック、1948年これまでのヨーロッパ中心のアートが覇権を握っていたアメリカニューヨークに移り、新時代のアートが生まれてきました。まずはアウトプット鑑賞してください。</p>  <p>ワーク この絵(ナンバー1A)がアートにどのような変革(イノベーション)を起こしたのでしょうか？ まずは5秒ほど、「窓」に目を向けてください。今度は「床」に目を向け、5秒数えてください。</p>	<p>ワーク</p> <p>なるべく他の人とは共通点が少ないような紙と鉛筆を使って「落書き」をする 時間は5分間程度</p> <p>グループ内で作品を共有して、共通点を探し出してみてください。</p> <p>(どのような「共通点」を探し出すか、まとめ方＝「抽象化」「概念化」を引き出すワークとなる)</p> <p>鑑賞</p> <p>時代を変えたアート ジャクソン・ポロックの「ナンバー1A」</p> <p>作品を鑑賞してできるだけ多くの「問い」を創り出す。</p> <p>なぜこの作品が「アート界にイノベーション」を起こしたのか、考えてみる</p>
20分		

問い  
 書き崩り通してもらいたいのは、「窓」を見た時のことです。  
 あなたの目には何が映っていましたか？  
 映っていたものを描出箱に書いてください

あなたの答えは、木々、空、建物...など  
 おそらく「窓の向こうにある景色」とした人  
 が多いのではないのでしょうか。  
 「透明な窓ガラス」「窓そのもの」を見つめ  
 た人はいたらうと思います。  
 アート作品の中でも絵画はまさにこの  
 「窓」に似ている。私たちが絵画を鑑賞する  
 とき、その絵を通してそこに書き込まれたイ  
 メージを見ている。

「ナンバー1A」が私たちに見せよ  
 うとしているもの  
 「床」を見た時、あなたの目には何が映  
 りましたか？「窓」の時とは異なり、目に入  
 ったものは「床板」「絨毯」など「床そのもの」  
 であるはず。この絵でいうとキャンパスの上  
 にある「床」です。この絵は私たちの目を  
 「物質としての絵そのもの」に向けさせよう  
 としているのです。



マグリットによれば、この絵は単にパイプのイメージを描い  
 ているだけで、観望者がパイプではないことを思い  
 ながらも、本物と見分けがつかないほどリアルにパイプを描い  
 たという、矛盾がある。どこまで描いても絵を鑑賞すること  
 ができない。だから「これはパイプではない」と認識してい  
 る。観望者の眼、つまりは「見る」行為が描画  
 行為の「見る」という行為です。見る人によって見えて  
 くる。そして、「描かぬ」行為も描く行為と見えてくる。そ  
 れが「見る」として「見る」行為の「見る」として「見る」  
 行為と見えてくる。ここにマグリットの「これはパイプではない」  
 とある。マグリットにとって絵画は描画行為ではなく  
 観望行為である。描画行為（描く行為）は、絵画の  
 技術、つまり芸術家と手を離れて観望する行為の行為  
 である。イメージは描画行為と手を離れて観望する行為  
 である。イメージは描画行為と手を離れて観望する行為  
 である。

言葉を使っていない  
 言葉を使った絵画と同じく言葉を離し、描くものでは  
 ない。これは、言葉の不在である。どのような言葉を  
 書くことはたれでもできる。そのような絵を書くこと  
 は、言葉ではない絵を描く行為とまた同じものである。

この作品はよく、芸術家シズル・フーコーが  
 1966年に発表した「言葉と物、を区別する能  
 用されること」がある。1973年には「これはパイプ  
 ではない」という言葉で論議的に論じられている。  
 マグリットがよく「哲人馬鹿」など芸術家をユル  
 レアリストと称されるのは、本作が原因となっている。

問い  
 ここまでの流れを踏まえて最初の質問を  
 もう一度繰り返します。  
 「グループ内すべてのラウガキの共通点を  
 さがしてきてください」

もう気づいた人も多くいるのでは？  
 そう、全部の共通点は-  
 「紙の上に黒鉛と粘土の混合物（鉛筆の芯  
 の成分）がこすりつけられて残っている」  
 という点



ヒントとして、「窓と床を見るワーク」を行う

「窓」を見た時に、「窓」そのものを見るよりも「窓の外にある風景や  
 物体」を見たのではないか

「床」を見た時は、どちらかというと「床」そのものを見ていたのはな  
 いか

アート作品の中でも絵画は、この「窓」のような役割をしているのでは  
 ないか？すなわち、「絵」を通してそこに書き込まれたイメージを見て  
 いる。

作品「ナンバー1A」は「窓」ではなく「床」を見せる。すなわち  
 「絵」そのものを見せるという改革に挑戦しているのではないか？

マグリットの「イメージの裏切り」「これはパイプではない」という作  
 品が私たちに伝えようとしていることについて考える

「絵」や「言葉」が伝えようとしている「意味」とその限界と危険性

私たちがこれまでの経験や慣習で勝手にイメージしてしまうものがある

「真実は何か」常に意識して「常識」に流されてしまわないことを学ぶ

これらの学びの後に、もう一度最初の「落書きの共通点」についてさが  
 してみる

絶対的な共通点  
 「すべて紙の上に筆記用具のインクや黒鉛の成分がこすりつけられてい  
 る」  
 「絵」そのものを見たことによってはじめて気づくこと

ワーク

30分

40分

45 分



問い

2歳の子どもが描いた絵を見て、あなたがこの子どもになったつもりでこの描いた絵を説明してみてください。

2歳の頃は手首から指先へと発達していくのでつまむことが出来、その指先に集中して目で見ることが出来るようになる。今までのお絵描きは手の動きを楽しむものだったが、自分の描いた絵を見て遊ぶようになる。今までは線と線と線から描いていく線を見比べたり、どこまでこの線を描いていこうかという事も考えられる。これからの未来を考えると描くことが出来る。ただやみくもにグルグル描いていた丸が閉じ始める。これは今までの描いていた絵との大きな変化の現れて、絵と言葉と思考が結びついて広げていく貴重な第一歩となる。

「2歳の子どもが描いた絵を見て、自分がその子どもになったつもりでこの描いた絵を説明する」

「共感力の伸長」

子どもの感性「何かを描こうとする意識よりも紙にしるしや色がつく楽しさ」大人の常識とは異なる

「線」を描くことから「丸」につながる楽しさ

子どもの目線、感覚を知る → 単なる「想像」では足りない。その子ども身体の中に「憑依」するような「なりきり」

この「共感力」が「デザイン思考」で活かされる